
2026年度「春の総代・組合員交流会」、アンケート「私から生協へ」でのご意見・ご質問

Q. 人と人との関りの中で営まれる事業運営の推進の中で、自前のできるコスト削減に向けた構造改革とは具体的にどんなことでしょうか？

A. 島根県は人口減少、少子高齢化の加速度が増しており、これから迎える人口減少社会において、組合員からの願いや地域課題に対して生協だけで解決することは困難な状況です。誰もが安心して暮らし続けることのできる地域創りに私たち生協は、行政や地域団体との連携を進めると同時に、期待に応え続けるための持続可能な経営基盤をしっかりと積み上げる必要があると考えています。こうした点を踏まえ、生協しまねとしても先々を見渡した事業経営の安定化と効率化を図るための事業所統合による構造改革に着手することや、日常業務ではデジタル化による業務改善の推進、可能な職種ではシステム化による合理化を図ります。

また、日々100コースを超える地域担当者が組合員に寄り添う中で、ビジョンの実現を目指し、職員の行動規範に則って、役割を発揮することのできる配送コースの実現、効率改善に向けて進めて参りますので、組合員のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

Q. 近隣では高齢者独居の方が多く、だんだんと生協の利用を楽しむより、注文の煩わしさや間違いの発生、お弁当配達に対し、ありがたい気持ちがある一方で、内容に飽きてしまうなどの段階をみることがあります。日常を支えるうえで「生協の安心感」を育んでもらえるよう、地域包括支援センターなどを交えて工夫できることはないものでしょうか？

A. ご高齢の組合員の中には、年齢や暮らしの変化により、注文が負担に感じられたり、注文間違いが増えたり、利用の状況が少しずつ変化していく方もおられます。生協としても、こうした変化を日々の暮らしの中で受けとめながら、安心して利用を続けていただけるような関わりが大切だと考えています。

現在、津和野町をはじめ、いくつかの自治体とは「高齢者等の見守り協定」を締結しており、商品の配送時や夕食宅配のお届け時に、組合員さんの様子に変化がないかを見守る取り組みを行っています。配送担当者などが「いつもと様子が違う」「連絡が取れない」「商品が残っている」などの異変に気づいた場合には、自治体や地域包括支援センターなどの関係機関へ情報をつなぎ、早期の対応につなげる体制づくりを進めています。

生協は、商品をお届けするだけでなく、日常の中で定期的に顔を合わせる存在でもあります。そのつながりを活かし、地域包括支援センターや自治体、地域の関係者と連携しながら、組合員さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、今後も見守りや声かけ、利用しやすい仕組みづくりに取り組んでまいります。

Q. つながり応援で「おしゃべりくらぶ」やってみたいけど近くでなかなか人数が揃わなくて残念です。「組合員どうしのネットワークをつくっていく」とは、どういう形でしょうか？

A. 「おしゃべりくらぶ」は、身近な方たちとの集まりの場を通じた地域のつながりづくりを応援する目的で、毎年多くの組合員に登録していただいています。今後も、よりたくさんの組合員のつながりを応援できるよう、場づくりをしやすい結成条件や応援内容を検討してまいります。

少子高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティへの参加機会の減少などにより、人と人とのつながりが希薄になっています。そのような状況だからこそ、生協の役割はますます重要であると考えており、人と人がつながることのできる場(機会)を提供・創出し、失われつつある地域のつながりの維持や、誰もが安心して暮らせる社会づくりにつながるようなネットワーク形成を応援します。

Q. フードバンクしまねについて、これは松江でされているのでしょうか？生協しまねとの関りがよくわからないのですが…もちろんとてもよいことだと思いますが、総代通信に載っているのがどういうことなのか不明です。

A. フードバンクしまねは、松江市内の小中学校を対象に、食の支援を必要とするご家庭などへ食品を届ける活動を行っています。昨年は松江市内の 29 校の小中学校を対象に取り組みを行い、少しずつ対象校や活動の幅を広げながら、地域の中で歩みを進めています。

生協しまねは、このフードバンクしまね あったか元気便の構成団体として加盟しています。その他の会員団体である JA しまねや松江保健生協などとも協力しながら、地域のくらしを支える取り組みの一つとして関わっています。

総代通信に「あったか元気便だより」として、情報を同封しているのは、生協しまねが関わっている活動について、総代のみなさんにも知っていただきたいと考えているためです。また、生協しまね独自の取り組みとしても、カタログを通じたフードドライブ（議案書 19 ページ）に取り組んでいます。

Q. 見ないカタログは発行停止にしている。出来ればすべてのカタログを停止にしてほしい。アプリが便利で毎回注文している。

A. アプリでのご利用ありがとうございます。インターネットでの生協利用が広がる中ですが、発行停止にすることで各支所から発行しているニュースや機関誌「こーぷ・しまね」などのお届けができなくなることから、現在は、アプリ利用の組合員さんへもカタログを発行しているのが現状です。6 月では約 43,600 人の組合員さんにカタログを発行し、そのうち 16,938 人（38.8%）の組合員の皆様にアプリ登録をいただいているのが現状です。

しかしながら、Web 注文の場合は資材の高騰や SDG s の取り組みからカタログ停止している生協もございますので、今年度調査・研究を行い、生協しまねとしても準備が整い次第、実施に向けてご案内して参ります。

以上